

報新團教

定 価 1部 220 円(本体 200 円+税 283 円)
 予約購読料 1 年分 千共 3,962 円
 紙代のみ 3,080 円
 振替 00140—9—145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 えて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL <http://uccj.org>
発行人 網 中 彰 子
編集主筆 嶋 田 恵 悟
印刷所 株式会社きかんし

《宣教師からの声》

多くの実を結ぶことを祈りつつ



私が所属する北インド
U. P. 州プラヤグラー
ジ県にあるサムヒギン
ボトム農工科学大学は、

1909年にアメリカの長老派宣教師によって設立された農業学校が総合大学に発展したもので、2009年にマキノスクールと改名されました。

す。
しかし、

インドの農村が疲弊していく状況を危惧し、農村青年のために教育機会を与えようと当大学農学部に設立されたのが、ノンフォーマル教育学部で後に設立に尽力した日本キリ

当初より農村のエリートを育てるというよりは農村の「土」に根ざした若者の育成を目指してきました。「健康な土づくり、その土による健康な食べものを、そして人々の健康な体と命をつくる」。このような土づくりに希望を持てるような教育を目指してきたのです。カリキュラムはい

たってノンフォーマル。

名前後で、年齢も18歳から40歳まで、高卒から大卒までまちまちです。だからこそ柔軟性のある研修が必要且つ重要となっています。

土づくりと環境保全を中心とした循環型有機農業、多様な野菜作物の栽培のみならず、それらの農産物の食品加工も学び、更にオルタナティブな販売方法を学ぶ。殆どの研修生にとってはハードで、挑戦的な学びです。更に、リーダーシップの能力を培ってもらうために、月に一度の朝の集会

参加しています。異文化環境の中で切磋琢磨し合っているから10か月間学ぶのです。自ら育った環境や文化、また自身を再認識、再評価するためにも異文化環境での学びは一生忘れないものとなっているようです。多様なものを単に忌避するのではなく、理解しようとする努力が必要なのです。

平和な社会に近づくために、多数派、少数派双方が互いの文化、歴史、宗教に敬意を払う姿勢が必要なのです。独自の文化や宗教は彼ら彼女らが

と。目立たぬ小さなものであっても、それが成長すれば大きな働きをするのです。

私たちの活動は小さな群れです。今年度もインド5名、ミャンマー2名、そして日本1名、総勢8名(男女各4名)の学生がマキノスクールで学んでいます。平和な社会へ向かって希望を見出せるような研修にしたいと願って活動を続けてまいります。

お祈りに加えていただければ幸いです。



ある真の幸いと同時に、
神の国がそこに存在して
いることを見出します。

今後、この世がどの
ようであって
も、兄弟姉妹
と共に主の恵
みと憐れみを
受け続けなが
ら礼拝する者
として歩んで
参りたいで
す。主イエス
が私たちに生
きる力と喜び
を与えてくだ
さるからで
す。

会堂 & スカイプ礼拝、ハイブリッド配信

ロヨ教会の中心メンバーたちと
右から二人目が筆者

私共一家6人も守られ元気にお仕えしています。コロナ禍での地下教会のような教会生活、2年間登校のなかった学校生活、その後襲った台風の被害と2ヶ月の停電断水生

がある分熱心に伝道し、教会も停滞することなく活動し続けてきました。この間に救われた人、成長したリーダーたちが自然と「故郷にも福音を」とポホール全土に働き場を広げ始めました。

そのタイミングで、この6年間自宅兼教会だった借家が売却されることになり、教会が移転を余儀なくされました。それ

その一つロヨ教会は台風の時流されて4本の柱しか残らなかった家ですが、再建された後に住人が救われ、現在は礼拝に用いられるようになりました。ハレルヤ！

またダイトットサー教会も、災害時に村中の家庭に物資を配ったことがきっかけとなり開拓された教会です。

これら遠方の教会は、

必要な

ことはただ
ス要因ではなく、教えら
れたことも確かにありま
した。

最近周囲の方々と、「ご
飯を美味しく食べること
ができ、自分の足で歩け
て、寝る家があるという
ことは最高の幸せよね
!!」という言葉をよく交

わします。苦しみや悩みの中にあるからこそうえるのです。生きる上で大切なことは、「あれもこれも」必要ではない、ということを実感しているのです。

教会生活でも同じことが言えると思います。長

しかし、必要なことはただ一つだけである」(ルカ10・42)と仰せになりました。数々の枝葉の事に心が囚われていた私に語られた御言葉です。教会にとって決定的なことは、かけがえない兄弟姉妹と共に神を見上げ、神に信頼すること。そして礼拝を捧げること。これだけで十分です。

毎週日曜日、いつもの

皆様いつも尊いお祈り
とお支えを心より感謝申

祈りにより、
さいました。人々は時間

から8つの教会に分かれ
それぞれに礼拝を守って
います。

佐々木良子

ケルン・ボン日本語キ

『新約聖書』

あなたは多くのことに思い
悩み、心を乱している。

必要なことはただ一つ



会堂 & スカイプ礼拝、ハイブリッド配信

▼部落解放センター運営委員会▲

センター全体で差別の課題に取り組んでいくために

第2回臨時運営委員会は6月28日にオンラインにて、第3回定期運営委員会および活動委員会との合同協議会を7月28、29日に大阪クリスチャンセンターにて開催し、大きくは2つの課題、①センター対外業務において発生した問題について、②活動委員会との協力体制について、時間を費やし議論した。

元より活動委員会と運営委員会とは車の両輪であり協力しあってゆくものであり、昨今、WEB環境も整いつつある中で、活動委員会の様々な活動に運営委員も積極的に関わりながら、差別問題について共に学んでいくこと、そして、積極的な交流と情報交換をしていくために両委員会の陪席等についても検討していくことを確認した。

①についても活発な議論がなされ、問題解決に向け更に歩みを進めることができたと思われる。自省を込めつつ、この課題にセンターとして取り組んでいくことを確認した。

運営委員会では主に以下の議題を決議した。

③活動委員補充と辞任の承認。

④2025年「第16回部落解放全国会議」を奥羽教区での開催を目指す。

⑤カナダ合同教会からの献金は、センター2階リフォーム費、2024年2月に沖縄で開催される「9条世界宗教者会議」ユースプログラム参加費等の補助、部落解放劇等のこれまでのセンター活動の歴史を世界に発信するためなどに用いていく。

⑥規程等見直しのため2023年度「部落解放センター奨学金」募集は行わない。

⑦2024年夏、ドイツで開催されるEMS(Evangelical Mission in Solidarity)主催のカンファレンスに足立てずえ活動委員長と上野玲奈主事を派遣。

その他「部落解放祈りの日礼拝」開催報告、9月開催の「第15回部落解放全国会議」京都、2023年10月と2024年3月に予定している「部落解放ユースセミナー」の計画等の案内と報告を受けた。

(西川幸作報)

▼牧会者とその家族のための相談室委員会▲

月一度のオンラインミーティングを開催

第2回「牧会者とその家族のための相談室委員会」が、教団会議室とオンラインで、7月19日に行われた。

電話相談の数は決して多いとは言えないが、相談内容も重要且つ、深刻な内容を含み、これまで以上に牧会の現場で起こっている課題が相談電話において出てきている。今までこのような問題を、教団の委員会として取り扱ってきたことはなく、この相談電話から見えてくる牧会者とその家族の現状を教団として受け止めていくことの重要性を感じ取っている。

半年に一度、対面で相談員とのミーティングを行い、相談内容について、その対応について、話し合い意見を聞き合う機会を持っているが、今後はそのミーティングだけではなく、月に一度、相談員と委員長とのズームミーティングを行うことになった。相談員と委員会の連携を深めていき、この課題により良く取り組んでいくことを願っている。

牧会者とその家族のための全国交流会を2024年9月30日、10月1日の日程で、教団事務局で開催することが決まった。今後具体的なプログラムの内容を検討していくことになる。対面での交流会を通して、よ

牧会者とその家族のための相談電話

☎ 03-6228-0016

毎週月曜日 10:00～16:00
(12:00～13:00は休憩)

相談用メール

past.uccj@gmail.com

受理したメールは1週間以内に、ご回答致しますが、相談内容、相談件数等によっては、時間を要する場合がありますので、ご了承ください。



講師の川島教授

8月1日、教師継続教育研修会がオンラインで行われ、34名が参加した。講師の川島堅三教授(東北学院大学)が「カルト」と題して講演を行った。

川島教授は、「宗教リテラシー」の普及がカルト問題の解決に資するとし、宗教リテラシーを三つのレベル、(1)情報提供、(2)参加・傾倒、(3)研究・調査で考える必要性を指摘した。

(2)参加・傾倒においては、英国の神学者ジョン・ヒックを主唱者とする「宗教多元論」に、偏重の亢進あるいは

主義」に立つあり方を提示。これは宗教団体に属する者達観する宗教哲学的主張ではなく、特定の団体に所属しながら他宗教との関係を考える中でたどるべき神学的立場であるとしつつ、宗教の変更や複数所属を認める立場である故、伝統宗教に対しても挑戦となるものであると指摘した。

(3)研究・調査では、日本の宗教学の基礎を築いた姉崎正治の「宗教心理学」を再評価しつつ、カルトと向き合う時、「正信と迷信」(正統と異端)という視点からではなく、病理学的視点に基づき、「宗教的意識の一部に、偏重の亢進あるいは

は、弁証法的な考え方に立てば、自分の中にある矛盾を簡単に解決しなくて良く、矛盾を無くそうとするとカルト化することを指摘した。また、洗礼については、「洗礼は取り消せないが、教会を離れることはあり得る」「離れることもあり得る」ことを告げて行くことも必要等の意見があった。「宗教2世の問題が取り上げられている中で、信仰継承についてどう考えるか」「複数の宗教所属は可能なのか」といった課題があることを指摘した。

質疑応答では、宗教多元主義については、「主イエスを救い主と信じるのが多元主義ではどのくらい乗り越えられて行くのか」「聖書を中心に啓示を受け取りつつ、排他的にならないようなあり方があるのでは」等の問いがあった。川島教授

(新報編集部報)

◆教師継続教育研修会◆

現代の伝道への問いとしてのカルト

8月1日、教師継続教育研修会がオンラインで行われ、34名が参加した。講師の川島堅三教授(東北学院大学)が「カルト」と題して講演を行った。

川島教授は、「宗教リテラシー」の普及がカルト問題の解決に資するとし、宗教リテラシーを三つのレベル、(1)情報提供、(2)参加・傾倒、(3)研究・調査で考える必要性を指摘した。

(2)参加・傾倒においては、英国の神学者ジョン・ヒックを主唱者とする「宗教多元論」に、偏重の亢進あるいは

主義」に立つあり方を提示。これは宗教団体に属する者達観する宗教哲学的主張ではなく、特定の団体に所属しながら他宗教との関係を考える中でたどるべき神学的立場であるとしつつ、宗教の変更や複数所属を認める立場である故、伝統宗教に対しても挑戦となるものであると指摘した。

(3)研究・調査では、日本の宗教学の基礎を築いた姉崎正治の「宗教心理学」を再評価しつつ、カルトと向き合う時、「正信と迷信」(正統と異端)という視点からではなく、病理学的視点に基づき、「宗教的意識の一部に、偏重の亢進あるいは

は、弁証法的な考え方に立てば、自分の中にある矛盾を簡単に解決しなくて良く、矛盾を無くそうとするとカルト化することを指摘した。また、洗礼については、「洗礼は取り消せないが、教会を離れることはあり得る」「離れることもあり得る」ことを告げて行くことも必要等の意見があった。「宗教2世の問題が取り上げられている中で、信仰継承についてどう考えるか」「複数の宗教所属は可能なのか」といった課題があることを指摘した。

質疑応答では、宗教多元主義については、「主イエスを救い主と信じるのが多元主義ではどのくらい乗り越えられて行くのか」「聖書を中心に啓示を受け取りつつ、排他的にならないようなあり方があるのでは」等の問いがあった。川島教授

(新報編集部報)



大阪クリスチャンセンターにて

▼信仰職制委員会▲

「按手礼」式文について協議

7月12日、オンラインにて第2回信仰職制委員会が委員全員の出席で開催され、先ず田邊由紀夫委員長より6月27、28日に行われた新任教師オリエンテーション出席報告、7月3、4日開催の教団常議員会報告がなされた。

続いて答申集Ⅱ発行に向けて進捗状況を確認し、文章精読の担当者を決めた。

また、今期の重要課題である「按手礼」式文について小泉健委員の研究報告を受けた。教団の三種の式文と他教派(海外)の構成要素分析、誓約文の比較検討の上、「式文使用の手引き」の提言がなされ、それを基に協議した。その中で、「手引き」ではなく「按手礼式文」を新たに作成すべきではないか、常議員会でも課題を取り上げ

てもらうべきではないか、そもそも教団における「按手礼」とは何か、各委員の経験なども踏まえつつ状況把握と共に様々な意見が出された。

次回更に小泉委員に「按手礼とは何か」について神学的見解を発表してもらい、研究を進めることにした。

(衛藤満彦報)

伝道所開設

伝 道 報 告

伝道の
ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう
言った。…イエスは言われた。「あなた
がたの名が天に書き記されているこ
とを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

祈り合う一つの体として

荒尾教会牧師・荒尾めぐみ幼稚園園長 佐藤 真史

出席10名の地方教会で3年から5年で牧師は入れ替わり、炭鉱町であった荒尾自体も斜陽化していく中で、園児が集まらず苦労した。無牧の期間は特に苦しく、園児20名にも届かない時期もあった。閉園までも話し合ったというが、大切な宣教の業として幼稚園を文字通り死守していったのだ。

1970年代に入り、幼稚園は安定していったが、2000年代に入ると少子高齢化の波に、共働き世帯の増加が加わり、再び園児数が減少していく。そのような中で、2015年に幼稚園を幼保連携型認定こども園に移行し、園舎も新築した。一時は30名だった園児数も、いまは約60名で推移している。その内、幼稚園型園児は10名で保育園型園児は50名。つまり、幼稚園のままだと立ち行かなくなっていたのだ。けれども、荒尾市の人口もこの春にはいよいよ4万人台に減少し、共働き世帯増加による待機児童も解消し、「需要と供給」が逆転した。当園を含め市内の各園は定員を埋めることができなくなりつつある…。

牧師園長として日々直面する課題はこれに尽きず多岐にわたる。2017年春に遭われた際、幼児教育に関してはまったくのド素人であり、最初は「大嵐」となっていました。課題にぶつかると、教会役員会で話し合い祈った。ここ数年は、毎月第1主日礼拝後すぐに学芸理事會として教会役員会を開催している。これらの積み重ねが、荒尾教会と荒尾めぐみ幼稚園が一つのキリストの体として歩むための「命綱」だと実感している。

また、他園を訪問し、出会い、研修を通して学び、教職員とtry and learnを繰り返す中で、キーワードが浮かび上がってきた。「陽だまりのような温かいキリスト教保育」、「遊びを中心とした子ども主体の保育」、「インクルーシブ保育」、「異年齢保育」。実はどれもこれまでの歴史の中で挑戦してきたことであり、それをいま再び着目し深めようとしていることに、神の不思議な導きを感じている。

いま教会と園に必要なのはまず「祈り」だと信じ、週報の祈りの課題に必ず園のことを加えている。さらに園でも毎週最初の朝の祈りで、教会員の方たちを覚えていく。信徒数よりも職員数の方が多い現実の中で、園生活において課題や苦難は、組織的にも個人的にも尽きない。そんな時、教会の〇〇さんが自分のことを祈ってくれていることを知り、どれだけ励まされるだろうか。そして、子どもたちと喜びあふれる出会いが与えられた時に、この出会いのために祈ってくれている人がいることに気付かされる時ほど、神の愛を実感することはない。



上、幼稚園（正面）と教会（右手）
下、泥遊びは最良の遊び

また、他園を訪問し、出会い、研修を通して学び、教職員とtry and learnを繰り返す中で、キーワードが浮かび上がってきた。「陽だまりのような温かいキリスト教保育」、「遊びを中心とした子ども主体の保育」、「インクルーシブ保育」、「異年齢保育」。実はどれもこれまでの歴史の中で挑戦してきたことであり、それをいま再び着目し深めようとしていることに、神の不思議な導きを感じている。

キリスト教社会事業同盟 総会

教会とのあるべき姿を模索し



講演する潮谷氏

日、レンブラントホテル東京町田にて開かれた。開会礼拝では雲然俊美教団議長が「あなたがたが与えなさい」と題してマタイ18章13～21節の説教をされ、主よりの励ましを頂いた。

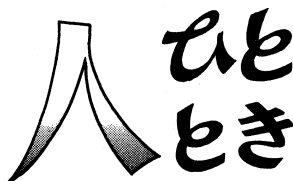
総会に先立つ研修会では、源流である教会とのあるべき姿を探るため、2講演が行われた。

「キリスト教社会福祉を支える神学」については李善恵氏（関西学院大学教授）が聖書を数多く引用して話された。

「教会と社会福祉」については潮谷義子氏（前慈愛園理事長）が信仰を基に施設職員として働かれた県知事として県政に関わられた体験を踏まえ、講演された。

総会では、理事長挨拶にて、教団との連携と共に教区・地区での交流、協力を模索したい旨が語られ、報告・計画が承認された。新体制となった理事14名には、網中彰子（以下「理事同」と略）であり、教会との相互理解と協力を推進する活動がなされてきた。また教団も理事同と協力するよう「教団社会活動基本方針」（1966年）に掲げて以来、踏襲してきた。理事同は1949年に設立され、現在、団体会員62法人・160施設、協力会員10名、個人会員10名。

社事同総会が7月7



大川 恒史さん

主の支えを受け止めて



大和郡山教会員

教会付属幼稚園の教諭として働いていた母に育てられ、幼少期から教会に通っていた大川恒史さん。伝道熱心だった母に訪問伝道に連れられて行ったこともあった。自然と信仰を養われて行く一方で、心で信じていれば洗礼を受ける必要はないと思っていた。

高校2年生の頃、イースター早天礼拝に向かう途上、母が語った「イエスさまも洗礼を受けたよ」との言葉に背中を押され、洗礼を受けた。

野球少年として育ち、高校ではテニスに打ち込んでいたため、受洗後はなかなか礼拝に出席できなかったという。高校卒業後は、コンプレッサーの製造を行う町工場に就職。パソコンの表計算ソフトを導入することに取り組んだ。

退職してからは、教会での奉仕の傍ら、趣味のテニス教室、マリンバの練習や推理小説の読書を楽しんでいる。愛唱聖句は、「わたしはふして眠り、また目をさます。主がわたしをささえられるからだ」（詩篇3篇5節）。日々生きて行くことの中にある主の支えを受け止める信仰を示される。

また、高齢となった今、幼い頃、日々、伝道に励んでいた母の姿を思い起こし、神さまを伝えることを第一として歩めるよう祈っているという。

四国教区では、自立連帯献金の充実を願い、7月を「自立連帯献金推進月間」としている。この教区の呼びかけを受け、高知教会では毎年、二つの取り組みをしている。「自立連帯献金推進」を覚える祈拝会と「四国伝道を覚える日」礼拝である。

まず「自立連帯献金推進月間」を覚える祈拝会では、自立連帯献金推進に関わる信徒の方に奨励をしていただいている。今年度は、財務部委員長にお願いし、改めて、自立連帯献金を用いて互助制度を運用することか

四国全体の伝道を覚えて

ら見える今後の展望をお伝えくださり、感謝の時となった。そして、7月の1回の礼拝を「四国伝道を覚える日」とし、これまで主として教区互助を受けている。

この取り組みが始まり、ある教会員が「最近の教会の取り組みで最もよいのは『四国伝道を覚える日』の取り組み」と言われた。やはり教会員は、共に伝道の幻を追っているそれぞれの教会の姿を深く知りたいと願っている。私自身が受け止めさせられる、感謝な言葉であった。

（教団総会書記 黒田若雄）